あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第6号
発行
平成22年4月1日
隔月発行

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします

発行:西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町5-6-18　イングビル1階

こんな市民活動があったのか！

2010 NPO市民フェスティバル

29団体 熱くアピール

多彩な分野から参加があり、団体同士の交流も深まりました

西東京市内にどんな市民活動団体があるのかを広く市民に知ってもらい、団体同士も互いに知り合ってもらおうと、「2010ＮＰＯ市民フェスティバル」が３月７日、南町スポーツ・文化交流センターきらっとで開かれました。

同フェスティバル実行委員会と市民協働推進センターの主催。環境保全、社会教育、国際協力、福祉などさまざまな活動分野のＮＰＯ法人11を含め29団体が参加。会場を取り囲むブースにパネルを展示し、ステージでは20団体が熱い口調やパフォーマンスで日頃の活動ぶりなどを発表しました。

市民約150人が訪れ、副題の「こんな市民活動があったのか！西東京」を肌で感じてもらえたようです。

前日からの会場設営や当日の受付、いすの出し入れ、音響調整、さらには血圧や脳年齢の測定などに武蔵野大学の学生ボランティア15人と市民ボランティアが活躍してくれました。

なお、当日会場で配布した、参加団体の活動内容を紹介する冊子（無料）の在庫があります。ご希望の方は市民協働推進センターへお越しください。

新任ごあいさつ
センター長
西口　徹

（にしぐち・とおる）３月まで民間企業で社会貢献やＣＳＲ（企業の社会的責任）の分野の職務に長く携わる。またＳＲＩ（社会的責任投資）の開発にも参画する。それらの経験を生かして、市民活動やまちづくりなどのサポート役に情熱を燃やす。趣味は５街道中４街道を踏破したウオーキング。

市民協働推進センターゆめこらぼは昨年、次の三つの理念を掲げ、「協働で拓（ひら）くまちづくり」をめざしてスタートしました。

▽多様な人が「あつまる」
▽多様な人を「つなげる」
▽多様な活動を「ささえる」

今年は、これらをベースにしつつも、これまでの経験やみなさまから寄せられた貴重なご意見を大いに生かしていきます。

好評の「トークサロン」や入門講座などのプログラム、各種イベントも、より多くの方々にご参加いただけるようさらに工夫した運営に努めます。また、みなさまへの情報提供を充実するために、ホームページの開設を含めて新たな取り組みを展開する予定です。

パネル展示ブースでは映像でアピールする団体も

NPO市民フェスティバルから

脳年齢測定を手伝うボランティアの大学生（右）

アドボカシー講座

「市民の声が社会を変える」

アドボカシー講座は２月 27 日、イングビルで開かれ、21 人が参加しました。アドボカシーとは耳慣れない言葉かもしれません。講師にお招きしたつかごしまなぶさん＝**写真上**＝によると、一言で説明すれば「政策提言」。

社会で無視されてきた身近な重要課題について人々に関心を持ってもらい、法制度や政策の変革を求め、最終的には人々の生活を良くする、という一連の活動のようです。

それも、地域や人々を中心に据えて行政、専門家などみんなが協力してやっていく「社会正義のアドボカシー」が望ましい姿だと言います。

つかごしさんはこう解説した後、自分が所属するＮＰＯ法人ファザーリングジャパン（父親の育児を支援）の活動と、自分が事務局を務めるフレンチトースト基金（父子家庭応援基金）の軌跡を通して「市民の声が社会を変える」事例を話しました。

同基金は、ファザーリングジャパンの一部にあった反対意見を乗り越え、メディアに取り上げられるなどにより父子家庭支援団体の集結を見ます。そして、国の景気対策で支給された定額給付金の寄付とカンパを父子家庭に支給しただけでなく、政権政党や閣僚らに働きかけることで父子家庭にも児童扶養手当が支給される制度改正をも実現しました。

もう１人の講師、ＮＰＯ法人西東京花の会理事の水井高志さん＝**写真下**＝は、平成９年に公園５カ所、９人で始まった花いっぱい運動が、現在は公共花壇 40 カ所、会員約 100 人となり、平成 20 年からオープンガーデンに取り組んでいることなどを紹介。会員の年会費と手弁当での活動について、「会員がよほど忍耐強いか、サービス精神が旺盛なのでしょう」。

中級編も好評

ＮＰＯのための会計講座

ＮＰＯ法人のための会計講座・中級編は 2 月 17 日、イングビル３階会議室で開かれ、22 人が受講しました。

昨年 11 月に行った基礎編に引き続き、馬場利明さん（税理士・ＮＰＯ支援東京会議）が区分経理、決算整理、源泉徴収事務などについて詳しく解説。受講者は真剣に聞き入り、「要点がわかりやすく、楽しく学べた」「自分のＮＰＯがちょうど必要としている会計知識ばかりで大変役に立った」との感想をいただきました。講座終了後も、先生への質問がしばらく続いていました。

小さなＦＭ局に大きな期待

トークサロン

当センターのサロンコーナーでくつろいで語り合ってもらう「トークサロン」は３月 18 日、「地域メディア」をテーマに開き、中高年を中心に 10 人が参加しました＝**写真**＝。

ゲストは、開局 13 年目に入るエフエム西東京代表の有賀達郎さん。有賀さんは、コミュニティ FM の電波の強さと聴こえる範囲の制約や、ベッドタウンがゆえに聴取者をつかむ難しさ、多摩地区にある５局のうちの一つが 3 月で放送を終了することなどを紹介しながらも、音声だけで伝えるメディアの可能性、小さな局ならではの番組作りの自負などを熱く語ってくれました。

参加者からは「独り暮らしの高齢者とつながる、心を癒やしてくれる番組を」「自殺や貧困などの社会問題にも時間を割いてほしい」などの注文が出ていました。また地域ミニコミ紙の廃刊が最近相次いでいる状況を受け、「地元情報のネットワークの核として存在感を高めて」と期待する声もありました。

☆助成金情報☆

（詳しくは各助成団体のホームページをご覧ください）

◆西東京市社会福祉協議会助成事業【対象】西東京市内で地域福祉活動を行っている、または始めようとしている民間団体・グループ・施設など【助成金額】１団体上限 10 万円、助成総額 60 万円【応募期限】４月 28 日【問い合わせ先】同協議会地域福祉推進係（電話 042-438-3771、http://www.furemachi.jp/）

◆損保ジャパン記念財団社会福祉助成【対象】社会福祉の分野で NPO 法人の設立を計画している団体。ただし、2010 年度中に設立認証申請を行うことが原則【助成金額】障害者、高齢者を対象に主として在宅福祉に関する活動に対し１団体 30 万円（総額未定）【応募期限】４月 30 日【問い合わせ先】前記財団事務局（電話 03･3349･9570、ファクス 03･5322･5257）

◆郵便事業会社動物愛護寄附金配分事業【対象】社会福祉法人、特例社団法人、特例財団法人、公益社団法人、公益財団法人、NPO 法人【助成金額】動物愛護管理に関する普及啓発活動、飼い主のいない犬・ネコなどの収容・譲渡の推進、盲導犬・介助犬などの育成普及などの事業に１件当たり上限 500 万円【応募期限】４月 30 日【問い合わせ先】同社経営企画部年賀寄附金事務局（電話 03･3504･4401、ファクス 03･3592･7620）

◆三井物産環境基金【対象】NPO 法人、一般社団・財団法人ほか【助成金額】国内・海外における地球環境問題の解決にかかわる「実践的な活動」（地球気候変動、水産資源の保護・食料確保、表土の保全・森林の保護など）に総額最大３億円。１件当たり上限なし【応募期限】５月５日【問い合わせ先】前記基金事務局（電話 03･5298･6616、E メール office@mbk-kankyokikin.com）

◆社団法人地域問題研究所活動助成【対象】市民グループなど【助成金額】都市問題、農山村問題の解決・改善のための市民活動、地域政策・社会政策の分析や評価のための活動、地域イベントの開催および成果の取りまとめ、これらに準じる活動１件につき 30 万円（採択予定は２件）【応募期限】５月６日【問い合わせ先】前記研究所　永田･杉戸さん（電話 052･232･0022、ファクス 052･232･0020）

◆ニッセイ財団高齢社会助成▼先駆的事業【対象】社会福祉法人、財団法人、社団法人、ＮＰＯ法人から２～３団体程度【助成金額】①高齢社会における地域福祉、まちづくり②高齢者の社会参加等のシステムづくり③認知症高齢者に関する予防からケアまでをテーマに１団体当たり最長２年半で 700 万円以内【応募期限】５月 31 日▼実践的研究【対象】研究者と実践家（現場の専門職や行政職など）の協働で５～８件程度【助成金額】テーマは前記とほぼ同じ。１件当たり最長２年で 200～250 万円程度【応募期限】６月 15 日【問い合わせ先】先駆的事業とも前記事務局（電話 06･6204･4013、ファクス 06･6204･0120）

◆みずほ教育福祉財団▼老後を豊かにするボランティア活動資金【対象】地域社会で高齢者のための活動をするボランティアグループ 140 程度（ボランティア数 10～50 人程度で結成以来の活動実績２年以上。法人格を有する団体、老人クラブなどは除く）【助成金額】高齢者の日常生活の援助、生活環境の改善、レクリエーション、世代交流などに直接使用する用具・機器類の購入（材料費は除く）に１グループ上限 10 万円【応募期限】５月 31 日▼配食用小型電気自動車寄贈事業【対象】原則週１回以上の配食活動を行っているボランティアグループ（東京都社会福祉協議会および西東京市社会福祉協議会の推薦、全国老人給食協力会の会員でかつ同会の推薦が必要）【助成金額】１グループ１台、10 グループ程度の見込み。１台は総額 110 万円を限度とする【応募期限】６月 30 日【問い合わせ先】前記ボランティア活動資金とも同財団福祉事業部　藤井さん（電話 03･3596･4532、ファクス 03･3596･4531）

ゆめこらぼ

朝市のにぎわいに一役

田無交流朝市は２月 28 日、田無駅北口とアスタをつなぐペデストリアンデッキ、総持寺参道、田無神社境内の３カ所で開かれました。

田無北口商店会、アスタ専門店街、田無商業協同組合の３商店会が西東京商工会の呼びかけに応じ、東京都が助成して中小企業振興を支援する「シナジースキーム事業」に共同参加しました。交流朝市は市民、地域団体、商店街のコラボレーションによる商店街活性化と魅力あるまちづくりを目指す初めての試みです。

ゆめこらぼも催しの企画段階から参加し、当日アスタ前でＰＲコーナーを出したほか、市民活動団体とのパイプ役を担いました。当日は福祉関係など３団体が田無神社境内の会場で手作りクッキーを販売したり、紙芝居、ダンスを演じたりして、彩りを添えてくれました。

アスタ前では、田無地区の農家が生産する小松菜、ホウレンソウ、大根をはじめ、ほのかな塩味が近年人気のアイスプラントなど 20 品目余りの新鮮な野菜が並び、雨の中を訪れた市民が買い求めていました。

子育てマップ「いこいこ」無料配布

子育て中のママたちが取材し、親子で安心して行ける公園と児童館を紹介する冊子「西東京市子育てマップ　いこいこ」が出来上がり、３月９日、田無駅前のアスタ・センターコートで約 300 冊が無料配布されました。

作ったのは、子育てしやすいまちづくりに取り組む市民活動団体「西東京子育てコム」。代表の田中のり子さん＝**写真**＝ら 15 人が「いこいこおでかけ隊」をつくり、計 57 カ所を取り上げました。

近くにコンビニがあるとか、夏は虫よけ対策が必要－など細かいところにまで目を配っています。持ち歩くと便利なベビー用、ママ用グッズも紹介しています。

Ａ５判 60 ページで、すべてカラー印刷。今後の配布予定はなく、児童館、児童センター、図書館などで閲覧できます。

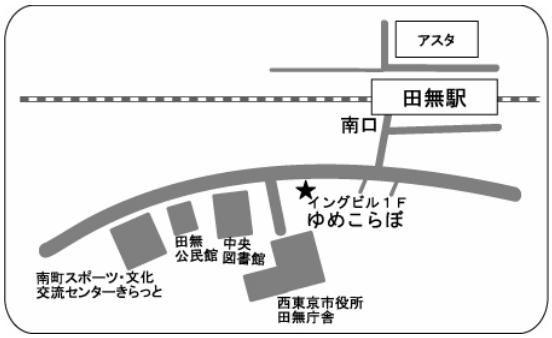
ゆめこらぼは
こんなとき、お役に立ちます

☆自分たちの活動をＰＲしたい
☆新しいメンバーを増やしたい
☆退職して今度は地域で役立ちたい
☆市民活動をしてみたいけど何から始めよう？
☆同じような活動をしている他の団体とつながりたい
☆助成金はどうすればもらえるの？
☆まちづくりに興味がある
☆ＮＰＯってなに？
☆行政と協働したい

《スタッフから》

○…イベントに行くと、どこかで見たことのある人だなと感じることが増えました。ゆめこらぼでいろいろな人と会っているからでしょう。ゆめこらぼが地域の人と人のつながりのハブ（拠点）になれば、「無縁社会」に陥る人を少しでも減らすことができるのでは、と思うこのごろです。（佐藤）

○…市民会館前の通りから田無小、田無警察署へと向かう途中の電柱に〝オニ〟がいます。黄や緑のまゆをつり上げ、にらみをきかせた顔。もう故人となられた男性が、道行く人たちの安全を願い、夜も光る反射材で作ったそうです。みんな、いろいろなかたちでつながり、見守られているんだな、とジンときました。（片山）



開館日：水～月（10時～21時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル1階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://nishitokyo.genki365.net/